

| | | | | |
|--|---------------|---------------|-------------------|--------------|
| 科目名 Course Name | | 開講年次 | 開講学期 | 曜日・時限 |
| 教師論 Theory of Teaching Profession | | 2年 | 後期 | 別途、時間割参照 |
| 単位数 | 授業の形態 | 授業の性格 | | 履修上の制限 |
| 2単位 | 講義 | 選択 | (教職課程必修(幼稚園教諭二種)) | 児童フィールドのみ |
| 当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目 | | | | |
| 教職関連科目 | | | | |
| 同時に履修しておくことが望まれる科目 | | | | |
| 教職関連科目 | | | | |
| 担当者に関する情報 | | | | |
| 氏名 | 研究室の場所 | オフィスアワー | | 電話番号・メールアドレス |
| 松崎勇人 | 本館2階 | 月曜と金曜の講義のない時間 | | 授業中に指示します |
| 授業の概要 | | | | |
| ①教職の意味、②教員の役割、③教員の職務内容、④進路選択に役立つ機会の提供を内容の柱として、現代における教師の使命や仕事や責任等について学生と共に考える。 | | | | |
| 授業の目標 | | | | |
| ①教職(教員の仕事)の社会的意味を述べられるようにする。 ②教員の果たすべき役割を述べられるようにする。 ③教員の職務内容(研修、職務、身分保障等)について述べられるようにする。 ④進路選択に役立つ機会を提供することを通し、自己の適性を高めることができるようにする。 | | | | |
| 授業の方法 | | | | |
| プリントと黒板を使っての説明を中心とした講義を行う。教育法規について分かりやすく説明する。また、内容のポイントで質問をする。講義者が、学生の述べた答えを尊重しながら、幅広い観点からそれを補い、深める。 | | | | |
| 学習の成果(学習成果) | | | | |
| ①社会的使命を自覚して教員として働くことができる。 ②学校組織の中でどのように働くべきかを考察して実践できる。 ③より良き教師とはどのような存在か、どのような努力をすべきかを考察して実践できる。 | | | | |
| 授業のスケジュールと内容 | | | | |
| 第1回目 | ガイダンス | | | |
| 第2回目 | 教育に関わる法律などの体系 | | | |
| 第3回目 | 教職の意義 | | | |
| 第4回目 | 教師の使命 | | | |
| 第5回目 | 教師の職責と職務内容 | | | |
| 第6回目 | 教員の種類と職階 | | | |

| | |
|-------|------------------|
| 第7回目 | 教員の採用と任命・罷免 |
| 第8回目 | 教員の地位と身分・待遇と研修 |
| 第9回目 | 学校経営と校務分掌 |
| 第10回目 | 教師像の類型（聖職者的教師像） |
| 第11回目 | 教師像の類型（労働者的教師像） |
| 第12回目 | 教師像の類型（専門職的教師像） |
| 第13回目 | 子どもの個性を伸ばす教師の在り方 |
| 第14回目 | 教師に求められる資質(人間性) |
| 第15回目 | 進路選択に役立つ機会の提供 |
| | |

成績評価の方法と基準

| 評価の領域 | 割合 | 評価の基準 |
|------------|-----|---|
| 授業参加態度 | 20% | 最高水準としては、講義者の話を集中して聞き、質問に的確に答えられること、与えられたテーマについて仲間の意見を聞き、自分の考えを述べられるなどである。 |
| レポート | | |
| 調査報告書 | | |
| 小テスト | | |
| 試験 | 80% | 到達目標に示した内容に関する基本的事項について述べられるか、考察できるかどうかをペーパーテストにより尋ねる。ノートの持ち込みは出来ない。評価基準の詳細は講義中に説明する。 |
| 発表内容（態度含む） | | |
| その他 | | |

教科書と参考図書

なし。適宜自作プリントを配布する。

履修上の留意点・ルール

休まないこと。私語をしないこと。真剣な態度で講義に臨むこと。積極的に質問することを望む。

| 科目名 Course Name | | 開講年次 | 開講学期 | 曜日・時限 |
|--|---------------|---------------|-----------------------------|-------------------------|
| 教師論 Theory of Teaching Profession | | 2年 | 後期 | 別途、時間割参照 |
| 単位数 | 授業の形態 | 授業の性格 | | 履修上の制限 |
| 2単位 | 講義 | 選択 | (教職課程必修(中学校教諭二種(外国語)、栄養教諭)) | 英語・栄養フィールドの教職課程履修者のみ受講可 |
| 当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目 | | | | |
| 教職関連科目 | | | | |
| 同時に履修しておくことが望まれる科目 | | | | |
| 教職関連科目 | | | | |
| 担当者に関する情報 | | | | |
| 氏名 | 研究室の場所 | オフィスアワー | | 電話番号・メールアドレス |
| 松崎勇人 | 本館2階 | 月曜と金曜の講義のない時間 | | 授業中に指示します |
| 授業の概要 | | | | |
| ①教職の意味、②教員の役割、③教員の職務内容、④進路選択に役立つ機会の提供を内容の柱として、現代における教師の使命や仕事や責任等について学生と共に考える。 | | | | |
| 授業の目標 | | | | |
| ①教職(教員の仕事)の社会的意味を述べられるようにする。 ②教員の果たすべき役割を述べられるようにする。 ③教員の職務内容(研修、職務、身分保障等)について述べられるようにする。 ④進路選択に役立つ機会を提供することを通し、自己の適性を高めることができるようにする。 | | | | |
| 授業の方法 | | | | |
| プリントと黒板を使っての説明を中心とした講義を行う。教育法規について分かりやすく説明する。また、理解のポイントで質問をする。講義者が、学生の述べた答えを尊重しながら、幅広い観点からそれを補い、深めるための討論を行う。 | | | | |
| 学習の成果(学習成果) | | | | |
| ①社会的使命を自覚して教員として働くことができる。 ②学校組織の中でどのように働くべきかを解釈して実践できる。 ③より良き教師とはどのような存在か、どのような努力をすべきかを身につけられ実践できる。 | | | | |
| 授業のスケジュールと内容 | | | | |
| 第1回目 | ガイダンス | | | |
| 第2回目 | 教育に関わる法律などの体系 | | | |
| 第3回目 | 教職の意義 | | | |
| 第4回目 | 教師の使命 | | | |
| 第5回目 | 教師の職責と職務内容 | | | |
| 第6回目 | 教員の種類と職階 | | | |

| | |
|-------|------------------|
| 第7回目 | 教員の採用と任命・罷免 |
| 第8回目 | 教員の地位と身分・待遇と研修 |
| 第9回目 | 学校経営と校務分掌 |
| 第10回目 | 教師像の類型（聖職者的教師像） |
| 第11回目 | 教師像の類型（労働者的教師像） |
| 第12回目 | 教師像の類型（専門職的教師像） |
| 第13回目 | 子どもの個性を伸ばす教師の在り方 |
| 第14回目 | 教師に求められる資質(人間性) |
| 第15回目 | 進路選択に役立つ機会の提供 |
| | |

成績評価の方法と基準

| 評価の領域 | 割合 | 評価の基準 |
|------------|-----|---|
| 授業参加態度 | 20% | 最高水準としては、講義者の話を集中して聞き、質問に的確に答えられること、与えられたテーマについて仲間の意見を聞き、自分の考えを述べられるなどである。 |
| レポート | | |
| 調査報告書 | | |
| 小テスト | | |
| 試験 | 80% | 到達目標に示した内容に関する基本的事項を理解できたかどうかをペーパーテストにより尋ねる。ノートの持ち込みは出来ない。評価基準の詳細は講義中に説明する。 |
| 発表内容（態度含む） | | |
| その他 | | |

教科書と参考図書

なし。適宜自作プリントを配布する。

履修上の留意点・ルール

休まないこと。私語をしないこと。真剣な態度で講義に臨むこと。積極的に質問することを望む。